

風間浦村 まち・ひと・しごと創生

【総合戦略】

村の将来像

「小さな漁村の挑戦・幸福は心の中に」を目指して

青森県 風間浦村

目 次

1 基本的な考え方

1-1 趣旨	1
1-2 総合戦略の位置づけ	1
1-3 計画の前提となる社会背景	2
1-4 計画期間	2
1-5 計画人口	2
1-6 村の将来像	2
1-7 3つのむらづくり理念	3
(1)「健康に寄り添うやさしいむらづくり」	3
(2)「自然を活かし、村民が活きるむらづくり」	4
(3)「高齢者の活気を創造するむらづくり」	5

2 重点プロジェクト

2-1 プロジェクト策定の背景	7
(1) 人口減少と少子高齢化社会の進行	7
(2) 基幹産業である一次産業の衰退	7
(3) 住環境として選ばれる地域づくりの必要性	7
(4) 環境にやさしいむらづくりの必要性	7
(5) 産業力の強化と雇用確保の必要性	8
(6) 積極的な情報発信の必要性	8
2-2 PDCAサイクル	9
(1) 計画策定(Plan)	9
(2) 推進(Do)	10
(3) 点検・評価(Check)	10
(4) 改善(Action)	10
2-3 5つの重点プロジェクト	11
(1) 風間浦村総合戦略重点プロジェクトの概念	11
(2) 重点プロジェクトの考え方	12
◎ 定住応援むらづくりプロジェクト	14
◎ きずな応援むらづくりプロジェクト	16
◎ 名物応援むらづくりプロジェクト	18
◎ 子育て応援むらづくりプロジェクト	20
◎ 健康応援むらづくりプロジェクト	22

【参考資料】将来展望に関わる調査(抜粋)

1 関連するアンケート調査結果の概略	24
◆ 風間浦村 村民アンケート	24
◆ 子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査	26
◆ 風間浦村 キッズコメントアンケート調査	32
◆ 風間浦村 成人式意識調査	39
2 風間浦村まち・ひと・しごと創生総合戦略策定 体制図	47

1 基本的な考え方

1-1 趣旨

この総合戦略は、風間浦村が次世代に向けて、村の姿やむらづくりにおける理念、中期的な施策の基本的方向、具体的施策をまとめたものです。

村民が下北半島の豊かな自然の恵みを受け継ぎ、村で暮らすことに幸せと誇りを感じ、人口減少や少子高齢化という急速な社会情勢の変化に対しても、村の独自性と持続性を発揮できるよう目指します。

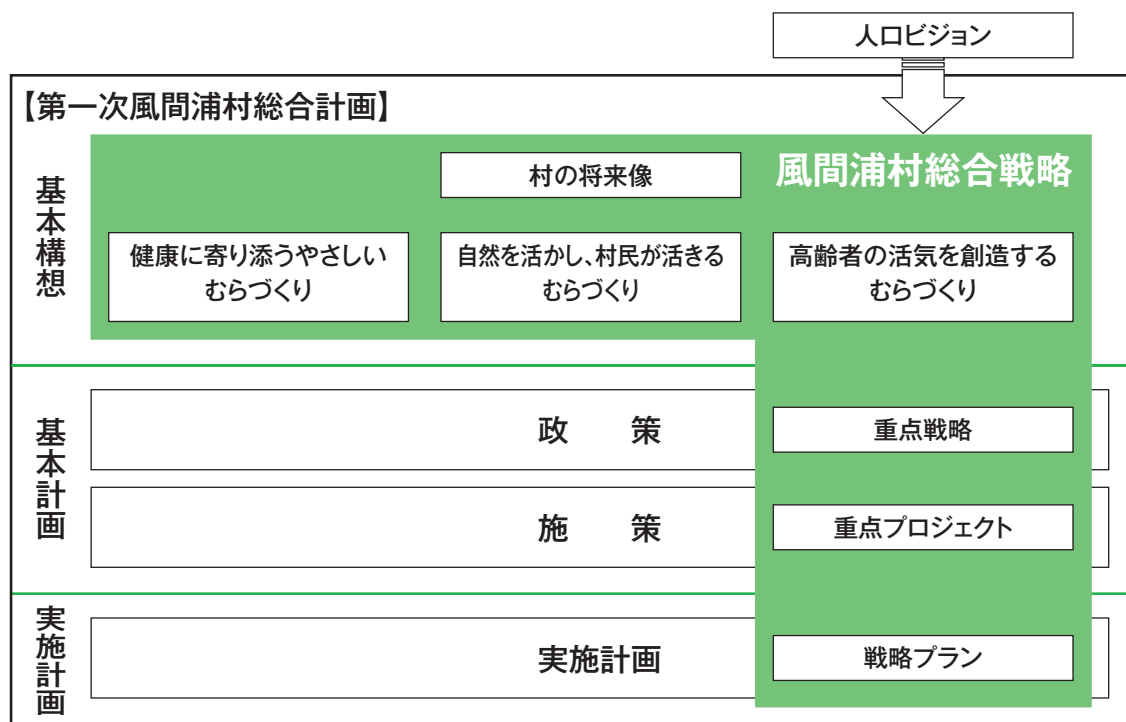
また、村民、団体、企業、行政など村全体で共有して推進する公共計画として位置づけるものです。

1-2 総合戦略の位置づけ

本総合戦略は、同時並行して策定されている「第一次風間浦村総合計画」の下位計画として位置づけます。

また、「第一次風間浦村総合計画」の基本計画および実施計画の一部として、総合戦略の重点プロジェクトや戦略プランを推進していきます。

【図 総合計画と総合戦略との関係】



1 - 3 計画の前提となる社会背景

風間浦村は、青森県下北半島の北西部に位置し、東部と南部はむつ市に、西部は大間町に隣接し、北部は津軽海峡を隔てて北海道に面しています。古くから豊富な水産資源を中心とした漁業と、下風呂温泉を活用した観光により発展してきました。

しかし、人口減少や少子高齢化に伴う地域コミュニティの崩壊と空き家の増加、福祉制度や医療体制に対する不安、核家族化や価値観の多様化による人の繋がり希薄化など様々な問題を抱えており、従来の考え方や手法では解決できない課題が増えてきています。

これらの課題を解決するためには、村全体で課題を共有し、村民が幸せと誇りを感じられるむらづくりのための実効性のある政策に取り組んでいくことが必要となります。

1 - 4 計画期間

平成27年度から平成31年度までの5年間とします。

1 - 5 計画人口

「風間浦村人口ビジョン」における人口の将来展望を踏まえ、計画期間内での取り組み成果を見込み1,832人とします。

1 - 6 村の将来像

海産物の宝庫・津軽海峡により自然豊かな漁村地域に生活している風間浦村の特色を活かし、自然との調和が村民の誇りとなるむらづくりを推進するために、目指すべき村の将来像を、

「小さな漁村の挑戦・幸福は心の中に!」

とし、その実現を目指して着実な推進を図ります。

また、下北圏域定住自立圏のむつ市をはじめとする関係市町村と連携しつつ、風間浦村独自の価値観を探求し、村民が心豊かに、安心して暮らすことができるむらづくりに取り組みます。

1-7 3つのむらづくり理念

本戦略と同時並行して策定された「第一次風間浦村総合計画」で掲げられた、以下の3つの理念を踏まえ、人口減少や少子高齢化が急速に進む社会情勢においても、村民が魅力を感じ、誇りが持てる持続可能なむらづくりに取り組みます。

(1)「健康に寄り添うやさしいむらづくり」

少子化対策と高齢化対策を通じて、小さな村であることを利点とし、政策の選択と集中に努力しながら村民の暮らしに安心と活力を与えるむらづくりを進めます。

① 地域医療に関する基本的な考え方

下北地域では地域内の市町村で構成する一部事務組合下北医療センターを形成しています。

近代的な施設で高水準医療を提供している基幹病院であるむつ総合病院を中心に、隣接する大間町には国民健康保険 大間病院が、風間浦村では国民健康保険 風間浦診療所が設置されています。

また青森市に通院する村民や、フェリーを利用することで交通アクセスが良いことから、函館市の医療機関を利用する村民も多い状況です。

現在は高齢化の進展から、高齢者の健康不安が高まりやすい状況にありますが、効果的・合理的な医療確保の推進を目指し、村民の健康を守り、健やかな生活を大切にするむらづくりに取り組みます。

② 子育て支援に関する基本的な考え方

平成18年度に施設の老朽化と少子化対策のため、下風呂・易国間・蛇浦の保育所を統合整備し、送迎バスを運行しています。平成26年度には保育所を公設民営化し、保育サービスの充実に努めています。

また、平成23年度より、村独自で0歳から中学校卒業までの児童生徒の通院及び入院(食事代含む)にかかる医療費全額を助成する「はつらつ育成事業医療給付」を開始しました。また、高校・大学等卒業後村内に在住する村民には奨学金の免除等を行い、定住の促進を図っています。

このように、若年層の共働き世帯を支え、子育て世代の経済的な不安を和らげることで子育てを支援し、風間浦村の次世代の育成に取り組みます。

(2)「自然を活かし、村民が生きるむらづくり」

津軽海峡に面した本州最北の村として、これまでの歴史の中で豊かな自然の中で生きる村民の知恵を尊重し、自然と調和のとれた持続可能なむらづくりを目指します。

①海・山の自然資源の活用

風間浦村では、昭和24年に下風呂・易国間及び蛇浦の3つの漁業協同組合が設立されています。漁港も下風呂・桑畑・易国間及び蛇浦の4漁港があり、ほぼ整備が終了しています。

漁獲数量の動向では、漁獲数量のうちおよそ52%※1が「いか」となっており、平成5年度より「活いか備蓄センター」運営を開始し、活きた「いか」がいつでも供給できる施設として、観光客の受け入れを進めてきました。さらにはコンブ、ふのり、ワカメ、ヒジキなどの海産物も特産品として定着しています。近年では「あんこう」が漁獲量・漁獲金額とも上位を占めており、ふのりとともに冬場の観光と結び付けたイベントを開催し、風間浦鮫鱈のブランド化と冬場の観光振興を図っています。

山においては、林業経営者のほとんどが小規模な事業体であることから、農業、漁業等の複合経営として考え、林業経営を進めるほか、資産価値の高いヒバの植林などによる資源の拡大と保全に努めています。

地下資源としても、下風呂地区の地熱で発電をするクリーンエネルギーの開発に期待が寄せられています。

風間浦村の資源である津軽海峡をはじめとした豊かな自然を世界に発信するとともに、自然と調和する形で各施設の整備やサービスを行い、風間浦村を訪れる人にその豊かさを体験していただき、村の活性化に資するよう取り組みます。

②海辺・川辺環境の保全

風間浦村は緑濃い山々と、蛇浦折戸海岸をはじめとする、国道279号沿いの岩礁海岸風景や易国間川溪流の清らかな河川の美しさが村の自然の魅力となっています。

この村の財産である美しい景観、豊かな自然など優れた環境を大切にし、訪れる人々に癒しをもたらす水辺環境の保全に取り組みます。

③村民との協働によるむらづくり

人口減少や少子高齢化など様々な課題に村の総力をあげて対応するため、情報の共有や意見交換による学びの機会を通じて、村民、地域、団体、企業、行政などがそれぞれ主体性を持って、新たな価値観の創出や課題解決に向け取り組みます。

※1 平成26年青森県海面漁業月別漁獲数量・漁獲金額調査(属地調査)市町村統計(26年)

(3)「高齢者の活気を創造するむらづくり」

昨今の経済動向の変動や少子高齢化・過疎化の進展においても、村民の生活の安定とにぎわいを持続し、豊かな自然資源を活用したむらづくりを進めます。

①地域福祉に関する基本的な考え方

風間浦村は高齢者率が高く、今後も高齢者福祉サービスに対する需要の高まりが予想されます。

そこで、高齢者の生きがい対策としての老人クラブ活動の促進や敬老会の開催等各種の施策を進めています。また高齢者の持つ優れた技術を活かし、生きがいづくりに貢献するためのシルバー人材センターが平成26年度に設置され、活動を続けており、今後も支援していきます。

高齢者福祉施設は村内にありませんが、平成10年度から総合福祉センターを核に福祉サービスを提供し、平成17年には民間のグループホームが開設されています。

他にも高齢者が元気に活動できるように、高齢者の憩いの場の設置を含め、今後も介護予防事業の強化や、生涯学習やボランティア活動など地域内での高齢者の連携を図り、お年寄りにやさしいむらづくりに取り組みます。

②主要道路の整備

風間浦村の東南側にはむつ市、北西側には大間町に隣接しており、国道279号で結ばれています。広域生活幹線道路はこの国道のみであり、主要道路として経済的、文化的にも大きな役割を担っています。高齢者には通院等の需要もあり、交通の確保は重要であり、整備にあたっては国・県に積極的な要望活動をしていきます。

また、風間浦村では東日本大震災の教訓を活かし、国道279号の代替道路として広域避難道の整備を進めています。

③土地・空間利用の基本的な考え方

村の一方は津軽海峡に面し、他方は山間地に面しており、ほとんどが傾斜地で平地部が極めて少ないという地勢事情があります。

集落も主に下風呂・桑畑・易国間・蛇浦と点在しています。そのため、効率的に行き届いた行政サービスを提供することで、暮らしやすいむらづくりに取り組みます。

また、安心・安全で、高齢者が暮らしやすく、将来にわたり定住地として選ばれるため、村の土地・空間の再構築を推進します。

④ICT^{※2}環境の整備

総務省の平成23年度末調査によると、青森県におけるインターネット利用率（個人）は、65.7%で全国最下位の状況です。

また、今年度の国政調査からインターネットによる申告が可能となり、観光や地場産品情報はもとより、今後益々ICT活用場面が増えていくことが想定されます。高齢者に遠方との交流を促すにも重要な手段となっています。

風間浦村においても、現在情報通信手段として主流となる携帯端末通信の無線通信インフラ（WiFi^{※3}ステーション）の整備と、村民のICTスキル向上のための講習会開催など時代にあったむらづくりに取り組みます。

※2 ICT：情報通信技術

※3 Wifi：無線によるインターネット接続技術の一つで、普及率の高い方式

2 重点プロジェクト

2-1 プロジェクト策定の背景

(1) 人口減少と少子高齢化社会の進行

日本の人口は、平成22年の国勢調査から減少に転じ、特に団塊世代を中心に、急激な速さで人口減少や少子高齢化が進むと予測されております。

風間浦村においては、昭和55年にはすでに人口減少が進んでおり、年齢階層別には、老年人口は平成32年をピークに減少に転じ、年少人口、生産年齢人口ともに右肩下りの減少を続ける人口減少の最終段階である第3段階に突入する見込みです。

(2) 基幹産業である一次産業の衰退

平成22年の国勢調査によると、村の基幹産業である漁業は、就業者の年齢が男性では29歳以下が10%を下回り、女性の就業者も30歳以上に限られている状況のため、今後、急激な担い手不足が予測されます。女性の就業者数が多い宿泊業・飲食サービス業でも29歳以下の就業者数が10%を下回り、担い手不足になる恐れがあります。

新規就漁支援などの施策により、若年者や移住者による漁業復興が喫緊の課題です。

(3) 住環境として選ばれる地域づくりの必要性

移住者が定住を決めるポイントは、その地域に暮らす住民の人柄などの人的環境、安心して暮らすための医療や福祉、教育、買い物、自然・気候などの住環境、生活コスト、情報通信インフラなど、社会の成熟化にともなって価値観が多様化しています。

国内人口の減少が予測される中、風間浦村が移住先として選ばれるための環境整備が重要です。

(4) 環境にやさしいむらづくりの必要性

戦中戦後の日本は、森林の木を伐りつくし、戦後の大規模な植林によって、ようやく日本の森林蓄積は60億 m^3 と、世界でも有数の森林資源国に成長しました。

また、森林の間伐や主伐により伐採された木材のうち、未利用のまま林地に残置されている間伐材や枝条等が年間に約2,000万 m^3 発生しています。

風間浦村では、このような利用されていない自然資源などを活用して林業経営の健全化を図るとともに、きのこ農園の設置などで観光資源化を促進するということにより、森林の保全と新たな資源開発を両立していく必要があります。

(5) 産業力の強化と雇用確保の必要性

人口が全国的に減少するなか、東京など一部の大都市へは人口が集中しています。そのため、風間浦村の産業もこれら大都市へアプローチを行い、販路を拡大し、風間浦村の地域資源の素晴らしさをPRする必要がある、継続的な直販施設などの情報発信拠点の整備が必要となっていきます。

村民の創意工夫による商品を地元で直に販売することで、どのような産品が好まれるのかなど、情報のフィードバックを行うことで更なる産業力の強化が促進されます。

積極的に展開することで商工業の活性化及び雇用の確保を行っていく必要があります。

(6) 積極的な情報発信の必要性

豊かな自然資源がただそのままそこに有るだけでは宝の持ち腐れです。大都市圏へのPR専用ブース設置や物販イベント参加、インターネット活用など、村からの積極的な情報発信が必要です。

また、来訪者が風間浦村を好きになり、リピーターになってもらう為には、おもてなしや商品の企画開発を行う人的施策のほか、昨今の口コミ情報は、知り合い同士の携帯端末で行われるため、来訪者の携帯端末に視点をおいた、分かりやすい村の情報発信の仕組みづくりや情報通信インフラの整備が重要です。近年の外国人旅行者増加を取り込むためにも情報にアクセスしやすい環境の整備は重要なポイントになっています。

2 - 2 PDCAサイクル

PDCAサイクルとは、Plan(計画策定)、Do(推進)、Check(点検・評価)、Action(改善)の略称です。

例えば、あるプロジェクト(事業)を推進するためには、先ずは、①計画(P)を立て、②次にその計画(P)を基にプロジェクト(事業)を推進(D)します。③その推進(D)の状況を点検・評価(C)し、問題が発見されれば、④改善(A)を実施するという一連の流れを繰り返します。この、P→D→C→Aを繰り返していくことを、PDCAサイクルと言います。

風間浦村総合戦略で計画された各政策については、このPDCAサイクルにより、政策目標の達成度を検証して行くことになります。

(1)計画策定(Plan)

風間浦村総合戦略の策定においては、庁内の各課代表者から組織された「風間浦村まち・ひと・しごと創生 推進部会」と、「風間浦村まち・ひと・しごと創生 推進本部」が連携して立案・検討・策定を行い、産、官、学、金で構成される「風間浦村まち・ひと・しごと創生 総合戦略推進会議」が施策の助言、審議を行った上で策定したものです。

なお、総合戦略の内容については、上位の計画である「第一次風間浦村総合計画」や、今回策定された「風間浦村人口ビジョン」の将来の人口推計を踏まえ、「村民アンケート調査」、「キッズコメント調査」、「成人式意識調査」から、村民の声を反映させた戦略として策定しました。

また、青森県が策定した「まち・ひと・しごと創生 青森県長期人口ビジョン」、「まち・ひと・しごと創生 青森県総合戦略」と、国のまち・ひと・しごと創生「長期人口ビジョン」、「総合戦略」について、県や国における基本的な方向性や整合性を合わせた上で、「風間浦村総合戦略」をまとめました。

(2) 推進 (Do)

策定された総合戦略を多様な媒体を通じて、幅広く情報発信するとともに、各分野において関連する地域、団体、企業、行政が共同した推進体制を構築します。

また、選択と集中を行う重点分野を明確にすることで期間内における優先順位を明確に示し、村の総力を挙げて重点分野に取り組むことで高い実効性を確保し、推進力を高めます。

計画実施は「風間浦村まち・ひと・しごと創生 推進本部」が行います。

(3) 点検・評価 (Check)

点検・評価は、「風間浦村まち・ひと・しごと創生 推進会議」が総合戦略策定後も検証機関として、継続して組織されます。

これら検証は毎年度末ごろに推進検証会議開催により行われます。

(4) 改善 (Action)

検証会議では、必要に応じて次年度以降の計画の修正や策定が再度行われたうえ、推進本部により検証後の計画が実施されます。

2-3 5つの重点プロジェクト

人口ビジョン及び総合戦略で描く村の将来像を実現するためには、すべての施策について画一的に実施をすることは、行政サービスの質・量と村の財政とのバランスから非常に困難な状況です。

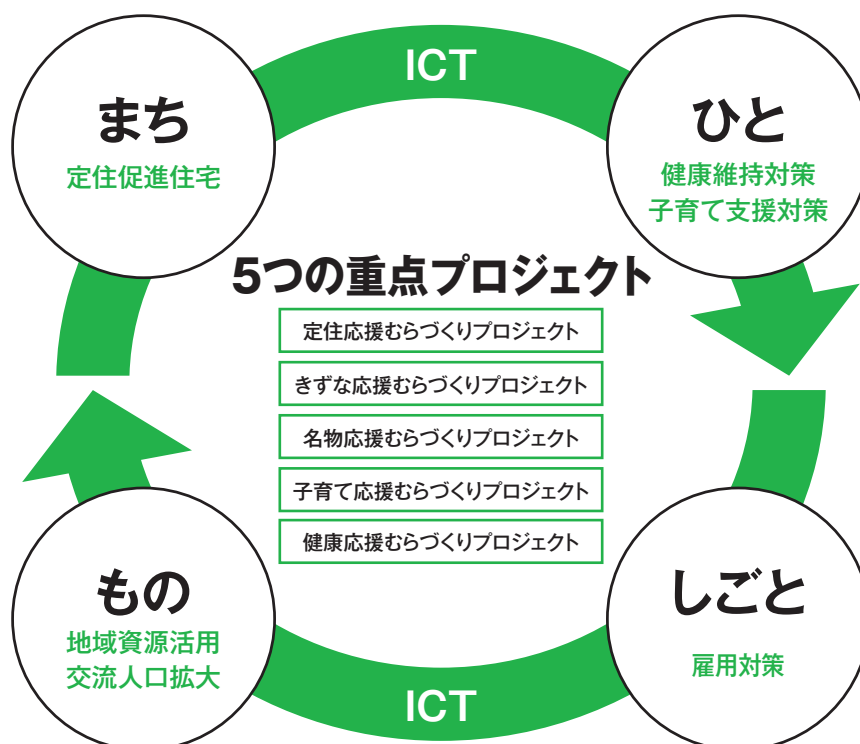
着実な達成に向け課題を効果的に解決するため、政策の必要性やその効果を検討したうえで、選択と集中による取り組みが必要となります。

また、人口ビジョンの推計結果や住民アンケート等により、村の将来にわたる人口減少の傾向と住民ニーズを検討し、人口減少抑制に向けた総合戦略の「概念」と「5つの重点プロジェクト」を決定しました。

(1) 風間浦村総合戦略重点プロジェクトの概念

村の人口減少抑制に向け、「まち」、「ひと」、「しごと」、「もの」、「交流」の各分野に対して、「定住促進対策」、「交流人口の拡大(観光)」、「雇用対策・地域資源活用」、「子育て支援対策」、「健康維持対策」の5つの政策の柱を設定し、その実現のため「定住応援むらづくりプロジェクト」、「きずな応援むらづくりプロジェクト」、「名物応援むらづくりプロジェクト」、「子育て応援むらづくりプロジェクト」、「健康応援むらづくりプロジェクト」の5つの重点プロジェクトに取り組みます。

また、村民の情報共有や村を訪れる人の利便性向上のため、ICTを活用した施策についても併せて推進します。



(2) 重点プロジェクトの考え方

本戦略で描く将来像を実現するためには、すべての施策を画一的に実施することは困難であり、着実な成果を達成できません。そのため「まち」・「ひと」・「しごと」・「もの」に横断する課題を解決するために必要性、重要性を考慮したうえで、計画期間の5年間で重点的に取り組む施策群（重点プロジェクト）の順位を明確にする必要があります。

また、本戦略が目的とする人口減少への対応には、出生率の向上を図り、人口減少に歯止めをかけることで将来的な人口構造そのものを変えていく「積極戦略」と、我が国全体で進行する人口減少自体を受け入れつつ、人口減少社会に向けて効率的かつ効果的な社会システムの再構築を行う「調整戦略」とをバランスよく進めていくことが重要となります。

そのための重点プロジェクトの選定基準として、国の指針及び青森県の指針を参考に、風間浦村の実情に沿った4つの基本方向を設けました。

重点プロジェクト5つの分野は、総合戦略における基本目標であり、経営資源（予算等）の優先配分を徹底するとともに、行政力を効果的に推進する原動力となり、村民、企業、関係団体との連携強化にも取り組む体制構築の着実な実現につながります。

4つの基本方向

① 調整戦略

**風間浦村への新しいひとの流れをつくることのできる
施策であること**

地域の活性化にはひとの流れをつくり、新たな地域づくりに活かすことが重要です。風間浦村では豊かな海産物をもたらす津軽海峡を有し、温泉などの地域資源にも恵まれており、積極的なひとの流れを創造することが期待できます。

② 積極戦略

風間浦村における安定した雇用を創出できる施策であること

安定した雇用はその地域で持続的な生活を支えるためには必須の要素であり、風間浦村の役割は、雇用の創出・確保であり、重点課題として位置づけ、積極的に取り組む必要があります。

③ 積極戦略

**風間浦村に暮らす若い世代の結婚・出産・子育ての希望を
かなえ、充実した教育環境を提供できる施策であること**

若い世代も安心して人生を豊かにできる暮らしをしたいと願っています。結婚等はその中でも重要な要素です。また、教育環境を整え、時代変化に対応できる自立した子どもの育成を積極的に支援する必要もあります。風間浦村では、そうした若い世代の希望をかなえ、子どもの笑顔があふれるむらづくりを目指します。

④ 調整戦略

**時代にあった風間浦村をつくり、安心な暮らしを守るとともに、
地域と地域を連携するものであること**

風間浦村は津軽海峡とともに時代を超えて共存しています。今後も多くの恵みを得るとともに、その時代に合った風間浦村をつくり上げ、村民の安心・安全な暮らしを守ります。

◎定住応援むらづくりプロジェクト

1.基本目標

- ・豊かな自然を好む移住者を誘い、定住を促進する情報発信を進める
- ・安心・安全に暮らすための環境を整備する

○数値目標

指標	数値目標
移住世帯数	5年間累計 10世帯

2.基本方向

風間浦村への新しいひとの流れをつくることのできる施策であること

3.具体的な施策と重要業績評価指標

具体的な施策・事業	内容	重要業績評価指標 (KPI) ※4
空き家バンク 整備・活用事業	村内の空き家情報を収集するとともに、民間事業者と連携し、整備・提供の促進を図る。また、空き家への移住に対する奨励制度を創設する。	空き家バンク登録件数 5年間の累計 20件
下風呂温泉婚活事業	下風呂温泉郷で結婚促進事業を実施して定住の促進と村の魅力を若者にPRする。	参加人数 30人/年
村民安心システム事業	地域の安心・安全強化のため村民安心システムを構築する。	村民安心システム 参加世帯数 5年間の累計 20世帯
コミュニティバス事業 (平成27年度事業)	村の少子高齢化の中、医療機関への患者送迎バスの運行を実施する。	コミュニティバス利用者 7,000人/年

※4 KPI: Key Performance Indicator (重要業績評価指標)の略

4.その他関連する政策

- 若者向け単身世帯住居整備事業

単身世帯住居を整備することにより、村外の近隣地域に通勤する若者の定住を図る。

- 移住促進PR事業

地域的にアクセスしやすい函館地域等からの移住促進のためにPRを強化する。

◎きずな応援むらづくりプロジェクト

1.基本目標

- ・人と人との絆を育むことで交流人口の拡大を図る

○数値目標

指標	数値目標
観光入込客数	50,930人(H26) ^{※5} → 62,000人(H31) ^{※6}

2.基本方向

風間浦村への新しいひとの流れをつくることのできる施策であること

※“ひとの流れ”には留まり定住するひとの流れと、観光により地域を経験・体験するひとの流れがあるため、「定住応援むらづくりプロジェクト」から観光関連を重点プロジェクトの一つに分離しました。

3.具体的な施策と重要業績評価指標

具体的な 施策・事業	内容	重要業績評価指標 (KPI)
湯の応援事業	函館等から下風呂温泉への誘客活動を強化する。	下風呂温泉宿泊者数 18,748人/年(H26) ^{※5} →25,000人/年(H31) ^{※6}
Wifiステーション 整備事業	村内に公衆無線LAN(Wifi) ^{※7} 環境を整備して、旅行者にも利用できるICTの整備を図る。	公衆無線観光スポット カバー率 50%
観光ガイド育成事業	風間浦村の魅力や観光スポットを紹介できる観光ガイドを育成する。	観光ガイドの育成者数 5年間の累計 3人
ゆかい村 魅力発信事業 (平成27年度事業)	地域の資源を活かした観光客の誘客促進を図るため、村内の観光に係る団体・企業・資源等の情報を集約し、HP等による情報発信を行う。	・観光客の増 50,930人(H26) ^{※5} →62,000人(H31) ^{※6} ・県外の販路拡大 5年間の累計 1件 ・地域資源の発掘 5年間の累計 2件
ふるさと探訪 ほのぼの事業 (平成27年度事業)	少子高齢化が進む中で、高齢者と母子等の交流の場を作り、郷土の歴史を伝承するなど、世代間交流を支援する。	高齢者と母子等の 交流人口 100人/年

※5 平成26年の実績値

※6 平成31年度までの推計値

※7 LAN：構内情報通信ネットワーク Wifi：無線LAN技術の一つで、普及率の高い方式

4.その他関連する政策

- 下北ジオパーク構想事業

下北ジオパーク構想事業の実現により交流人口の拡大を図る。

- 合宿受け入れ体制整備事業

村内の空き施設を活用し、スポーツ施設などとの組み合わせで学生等の合宿の受け入れを行っていく。

- 来訪者受け入れ体制整備事業

村外からの来訪者の受け入れ環境及び人的体制を整備する。

- 燧岳(ひうちだけ)周辺観光スポット構想事業

燧岳(ひうちだけ)の登山道整備と併せてなめこ園の整備を行い、観光スポットとして誘客する。

- 道の駅整備事業

村の情報を発信する拠点として道の駅を整備し、交流人口の拡大を図る。

- 観光情報発信強化事業

インターネットを活用した村の観光情報の発信力の強化を行う。

◎名物応援むらづくりプロジェクト

1.基本目標

海の幸、山の幸の豊かさを活かした雇用の場づくりと地域資源の有効活用を図る。

○数値目標

指標	数値目標
新規就業者数	5年間の累計 10人

2.基本方向

風間浦村において安定した雇用を創出し、新規就業者の確保・育成を目指す施策であること

3.具体的な施策と重要業績評価指標

具体的な施策・事業	内容	重要業績評価指標 (KPI)
漁業後継者 自立支援事業	若い漁業経営者が世帯形成し自立を促すことを目的にした支援制度を創設する。	利用後継者数 5年間の累計 3人
農林水産業 稼ぐ力強化事業	漁業 二次加工化、ICT活用、わかめ・昆布の養殖、販売促進の支援、出資金の補助 農業 農地の集積化、新規就農者支援の促進 林業 森林整備、製材業への支援	農業・林業・漁業に係る新規就業者数 5年間の累計 3人
6次産業化応援事業	農林水産業の6次産業化に向けた環境整備を実施する。	農林水産業の6次産業化に係る商品企画開発 5年間の累計 5件

4.その他関連する政策

- 地熱エネルギー開発事業

地熱エネルギーの開発促進を図る。

- 未来を変える挑戦事業

青森県と連携し、新規創業や新規分野進出事業者の支援を図る。

- クラウドファンディング制度の奨励

新しいアイデアや夢を持った村民や事業者が、資金面で諦めることなくチャレンジできるようクラウドファンディング※⁸を利用しやすい環境整備を図る。

※8 クラウドファンディング：不特定多数の人がインターネットを利用して小口の資金を提供する仕組み。インターネットを利用した資金調達手法の一つ。

◎子育て応援むらづくりプロジェクト

1.基本目標

村の宝である子どもの成長を応援し、人材の育成を図る。

○数値目標

指標	数値目標
子ども学習塾	受講者数 延べ200人/年

2.基本方向

風間浦村に暮らす若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえ、充実した教育環境を提供できる施策であること

3.具体的な施策と重要業績評価指標

具体的な施策・事業	内容	重要業績評価指標 (KPI)
同志社・青森公立大 交流事業	歴史的にゆかりのある学校法人同志社と、連携協定を結ぶ青森公立大学の学生等と、風間浦村の子どもたちの交流イベントを開催し、子どもの視野を広げ社会性を育む。	交流イベント参加者数 延べ150人/年
子ども学習塾事業	子ども向け学習塾を開催し、従来の教科のほかICTを活用した多様な学習を行い、学力の向上を図る。	学習塾受講者数 延べ200人/年
地域子育て 支援センター 利用促進事業	風間浦保育所に設置されている子育て支援センターに妊産婦や自宅で過ごす親子などを集め、子育ての不安などを解消させる。	参加者 10人/年
すこやか育児事業 (平成27年度事業)	乳幼児から中学生までを対象として、医療費の自己負担にかかる費用を助成し、子育てのしやすいむらづくりを目指す。	出生数 5人/年

4.その他関連する政策

- 遠隔授業事業

学校法人同志社と学校をICTで結ぶことで、村内児童向けに英語の遠隔授業を実施する。

◎健康応援むらづくりプロジェクト

1.基本目標

健康で活動的な村民を増やし、活気あるむらづくりを進める。

○数値目標

指標	数値目標
お達者度 ^{※9}	男性 13.8 女性 20.6

2.基本方向

時代にあった風間浦村をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携するものであること

3.具体的な施策と重要業績評価指標

具体的な施策・事業	内容	重要業績評価指標 (KPI)
インフルエンザ 予防接種費用助成事業	インフルエンザ予防接種率向上を目的に、助成を実施する。	年間予防接種率 39%(H26年度) →45%(H31年度)
健康診断助成事業	村民の特定健診受診率向上を目的に、助成を実施する。	健康診断受診率 30%(H26年度) →40%(H31年度)
頭健康 スクリーニング事業	頭健康チェックシステム活用による認知症の早期発見、早期予防相談により、高齢者の健康寿命を延伸する。	頭健康 スクリーニング参加者 240人/年

※9 お達者度：65歳から元気で暮らせる年数

4.その他関連する政策

- 多職種連携事業

医療と福祉が連携し、情報を共有することにより、効果的な保健・福祉・医療の実現を図る。

- 見守りシステム導入事業

高齢者世帯にICTを活用した見守りシステムを導入することで、緊急事態に備えて安全・安心な生活を実現する。

- 村民参加型運動事業

継続的な運動習慣を意識づけ、「健康寿命」の延伸を図ることを目的として、村民参加型の運動事業を実施する。

【参考資料】 将来展望に関わる調査(抜粋)

1.関連するアンケート調査結果の概略

これまでも風間浦村では、行政サービスを充実させ、住民の満足度を向上させるために、村民に対して各種の調査を行ってきました。

この参考資料は、総合戦略に村民の声を反映するための重要な検討資料として掲載しています。

◆風間浦村 村民アンケート

実 施：平成27年9月2日(水)～9月18日(金)

調査対象：風間浦村 村民各世帯(毎戸配布、郵送による回収)

回答数：配布数：891、回収数：312(回収率35.0%)

概 略：

このアンケートは、総合戦略の上位計画である「第一次風間浦村総合計画」を策定するために実施されたものです。

次項の「総合評価グラフ表」については、村民に対するアンケートで、村が推進すべき政策について「満足度」と「重要度」について考え方を尋ね、それぞれの項目で得点化、偏差値化の統計処理を行い、総合評価としてグラフ表にまとめたものです。

このグラフ表からは、今後の課題と村民の素直な評価と問題意識がハッキリと理解することが出来ます。

グラフ表の内容は、村が実施する行政施策に対する村民の意識を、以下の各4分野に集計しました。

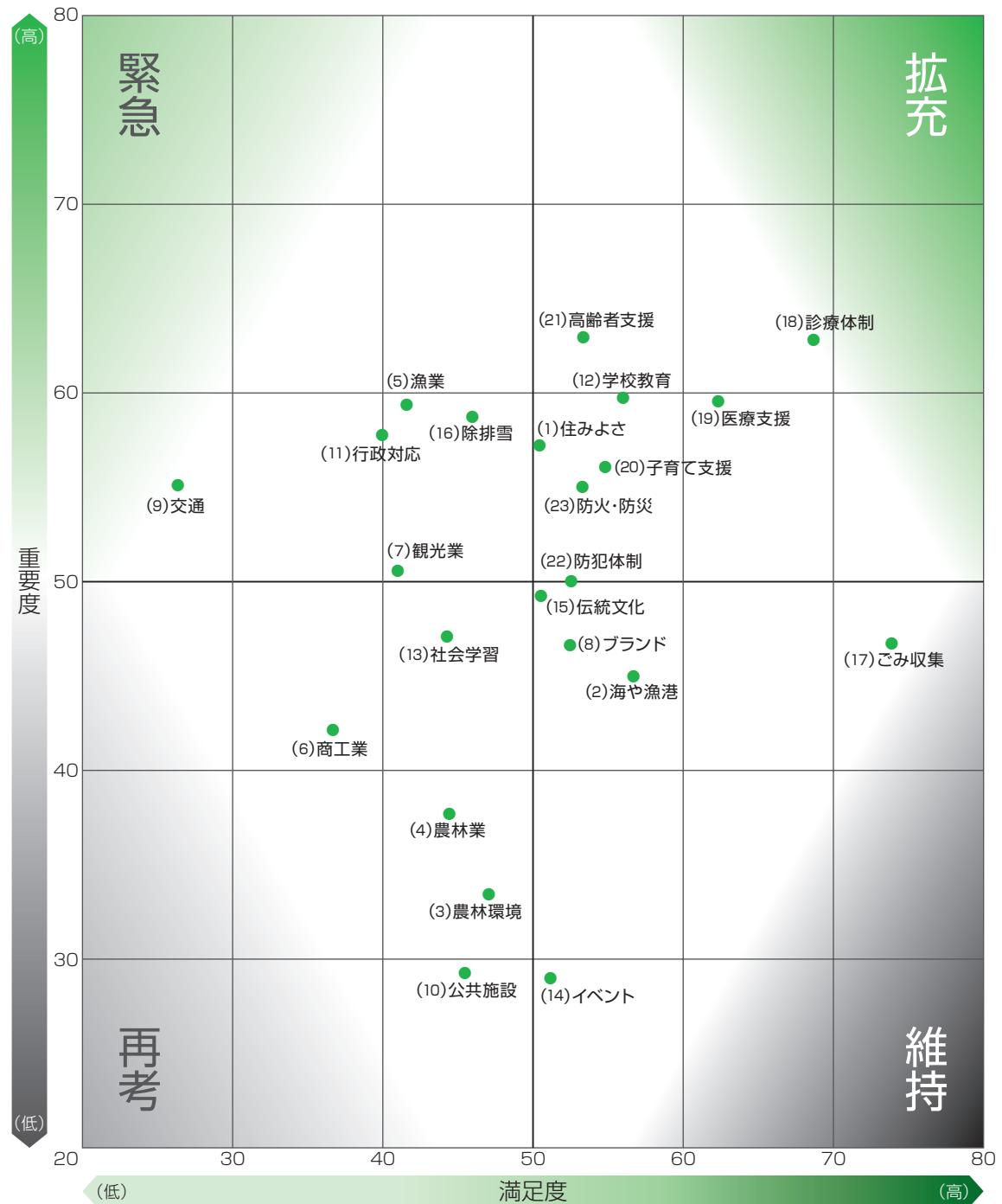
- ①緊急分野…将来的な重要度が高く、現状の満足度が低い分野
- ②拡充分野…将来的な重要度が高く、現状の満足度が高い分野
- ③再考分野…将来的な重要度が低く、現状の満足度が低い分野
- ④維持分野…将来的な重要度が低く、現状の満足度が高い分野

その結果、特に力を入れるべき緊急分野では、「交通利用のしやすさ」、「行政の対応」、「漁業の振興」、「観光業の振興」、「冬場の除排雪」となり、拡充分野では、「診療体制の充実」、「医療支援の充実」、「高齢者支援の充実」、「学校教育の充実」、「子育て支援の充実」、「村の住みよさ」、「防火・防災体制の充実」等の施策となりました。

将来的な重要度については、「高齢者の支援」を最も重視しています。時代に合った効率的な支援策が必要となります。

以上、村民の政策に対する意識調査を反映した政策実施の優先分野としては、①緊急分野、②拡充分野、③再考分野、④維持分野の順序の優先付けと、かつ、村の将来に渡る人口減少抑制のための戦略的効果を勘案し、総合戦略として検討します。

<総合評価グラフ表>



◆子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査

実 施：平成26年1月

調 査 対 象：就学前児童を持つ保護者

小学生児童を持つ保護者

回 答 数：配布数：90、回収数：64(回収率:71.1%)

概 略：

風間浦村では、これまで平成17年4月に施行された「次世代育成支援対策推進法」に基づいて策定した「風間浦村次世代育成支援地域行動計画【後期計画】」(計画期間:平成22年度～平成26年度)に沿って、次世代育成支援に関する子育て施策を総合的かつ計画的に推進してきました。

その流れを受け継ぐとともに、この調査は平成24年8月に成立した、子ども・子育て関連3法による「子ども・子育て支援法」にもとづく、平成27年度からの5年間を計画期間とする「風間浦村子ども・子育て支援事業計画」を策定するために行われた調査です。

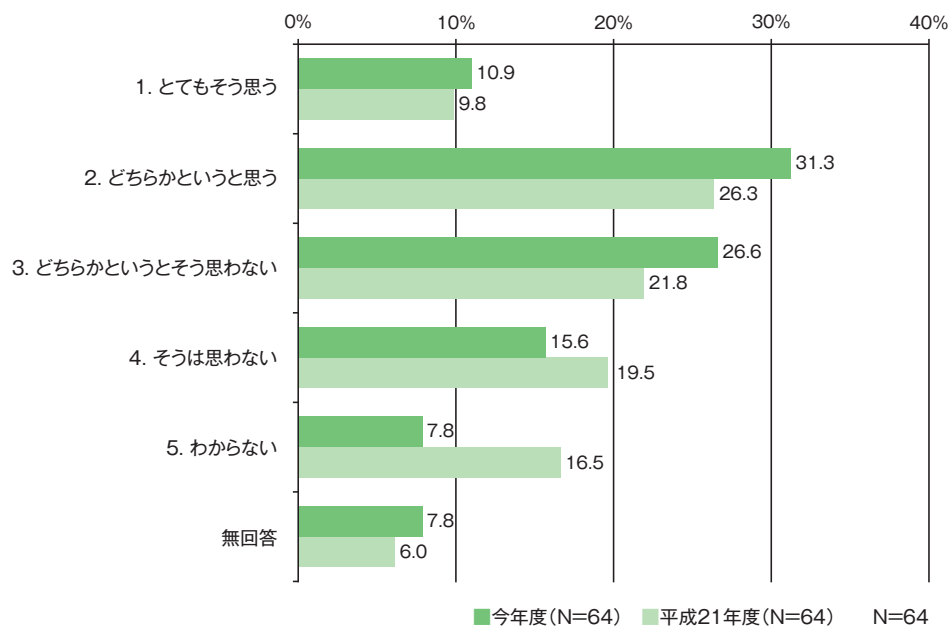
就学前児童、小学生児童を持つ保護者を対象として、子育て家庭ニーズの動向分析等を行い、村の現状と今後の子ども・子育て支援における課題を整理することを目的としたニーズ調査です。

総合戦略検討のための参考資料として掲載しています。

1.地域の子育て支援の環境に対する満足度

子育てしやすいと感じているかについては、「子育てしやすいと思う(選択肢「1」「2」の合計)」(42.2%)、「子育てしやすいと思わない(選択肢「3」「4」の合計)」(42.2%)となっています。平成21年度の次世代育成支援後期行動計画策定のためのアンケート調査結果と比較すると、「子育てしやすいと思う」が6.1ポイント増、「子育てしやすいと思わない」が0.8ポイント増となっています。

問17 風間浦村は、子育てをしやすい環境と感じていますか。【世帯】

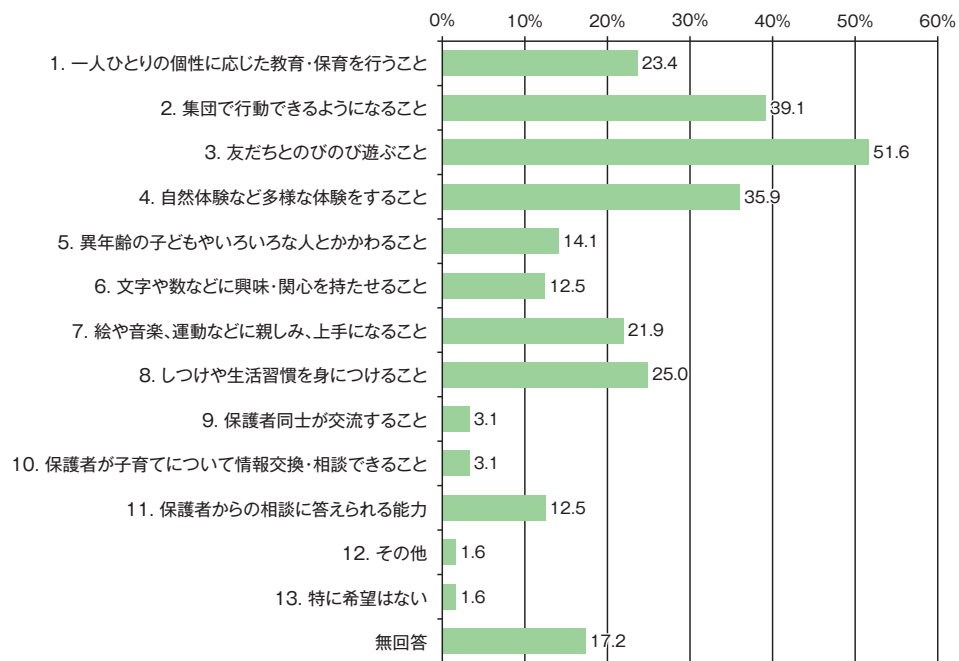


「風間浦村 子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査結果報告書」(平成26年3月) P.26

2. 保育所へのニーズ

保育所に望むことについては、「3. 友達とのびのびと遊ぶこと」(51.6%)が最も多く、次いで「2. 集団で行動できるようになること」(39.1%)、「4. 自然体験など多様な体験をすること」(35.9%)と続きます。

問15 保育所にどのようなことを望みますか。【世帯】※複数回答



N=64

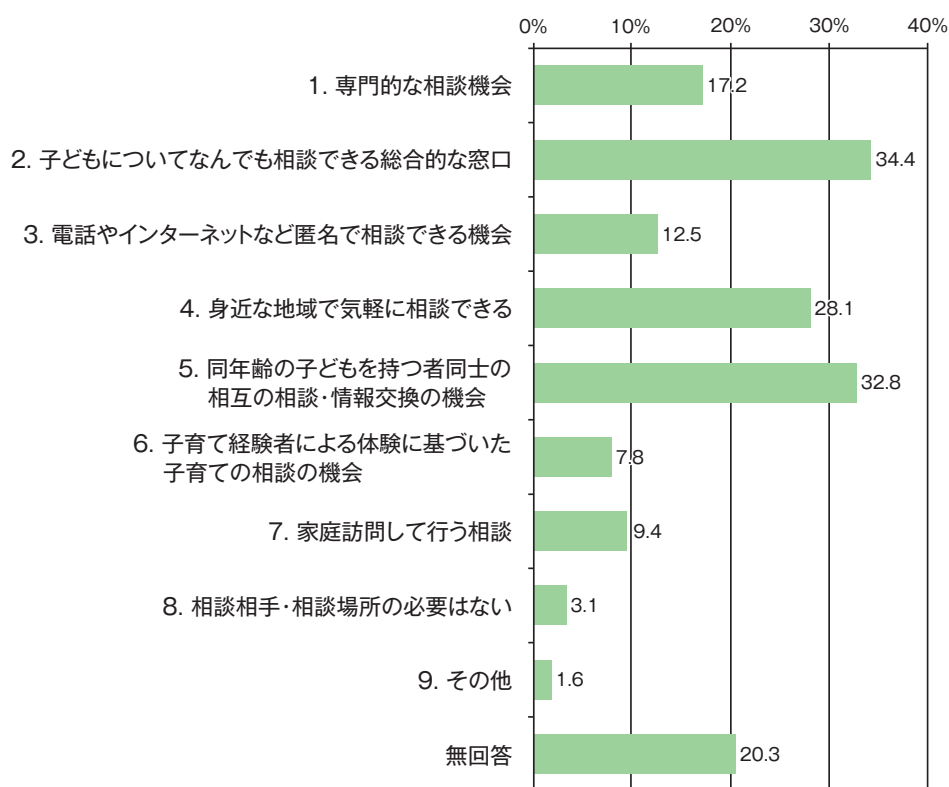
「風間浦村 子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査結果報告書」(平成26年3月) P.24

3.子育ての相談相手・相談場所について

今後の子育てについての相談相手・相談場所として希望することについては、「2.子どもについて何でも相談できる総合的な窓口」(34.4%)が最も多く、次いで「5.同年齢の子どもを持つ者同士の相互の相談・情報交換の機会」(32.8%)、「4.身近な地域で気軽に相談できる」(28.1%)と続きます。

問14

今後、子育てについての相談相手、相談場所として希望することは何ですか。【世帯】※複数回答



N=64

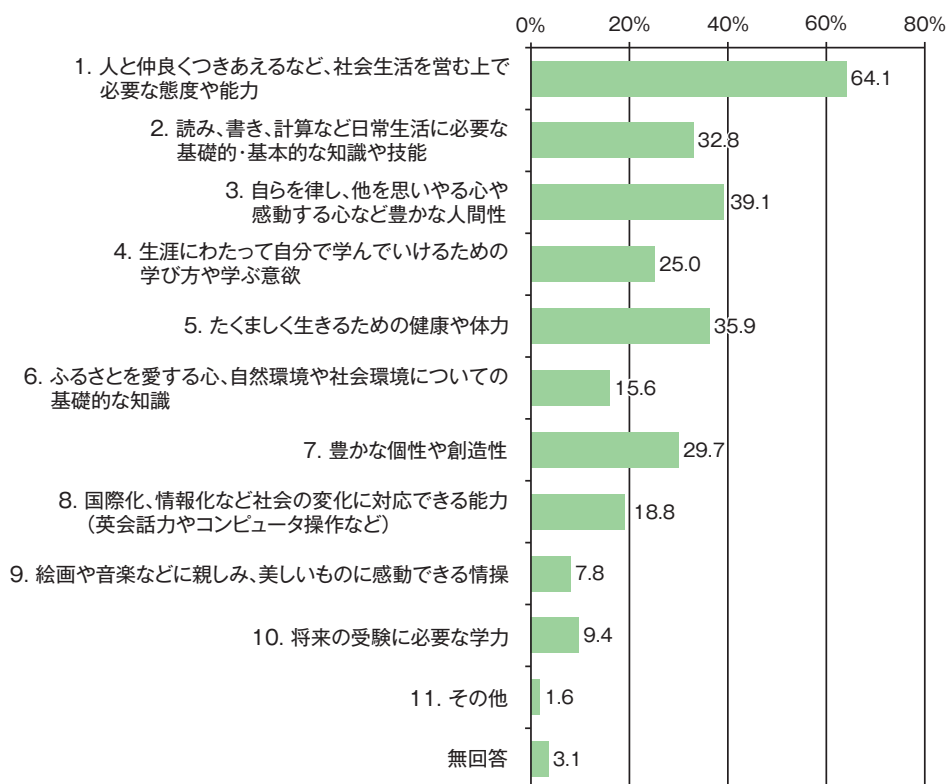
「風間浦村 子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査結果報告書」(平成26年3月) P.23

4. 小学校の教育で重視すべき点について

小学校教育で重視すべきだと思うことについては、「1.人と仲良く付き合えるなど、社会生活を営む上で必要な態度や能力」(64.1%)が最も多く、6割を超えています。

問16

あなたは、風間浦村の小学校の教育で、どのようなことを身につける教育を特に重視すべきと思いますか。【世帯】※複数回答



N=64

「風間浦村 子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査結果報告書」(平成26年3月) P.25

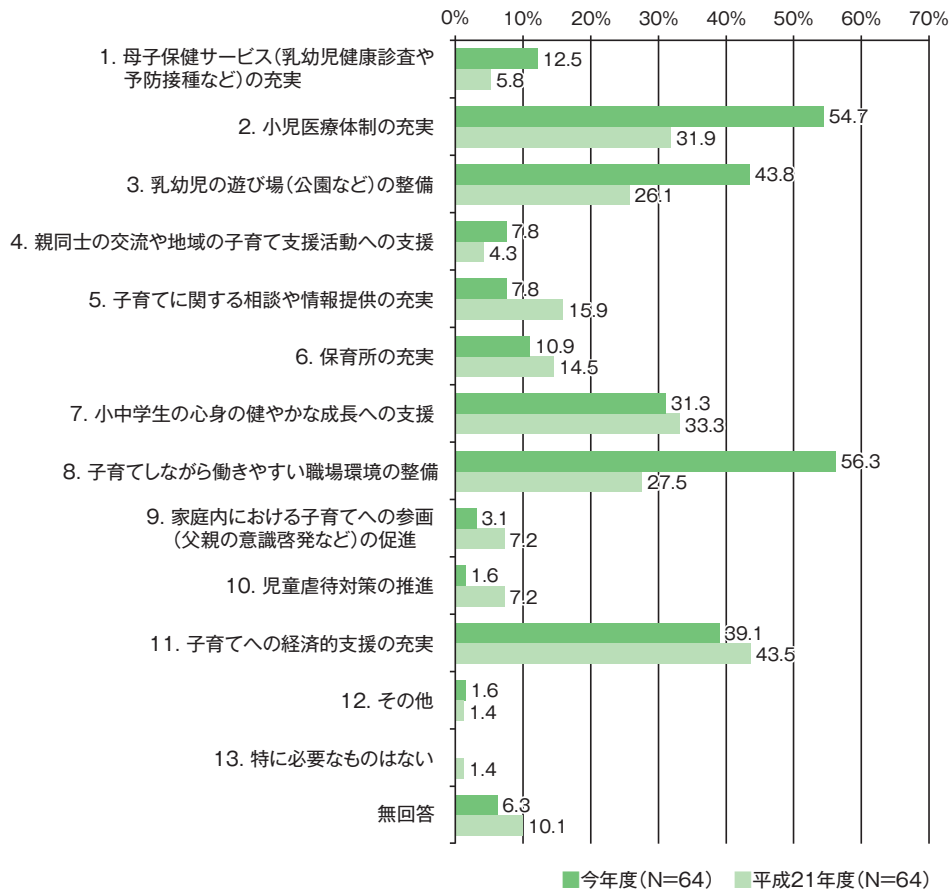
5.子育てをしやすいむらづくりのために、今後重要だと思うこと

子育てしやすいとむらづくりのために重要だと思うことについては、「8.子育てしながら働きやすい職場環境の整備」(56.3%)が最も多く、ついで「2.小児医療体制の充実」(54.7%)、「3.乳幼児の遊び場(公園など)の整備」(43.8%)と続きます。

次世代育成支援後期行動計画策定のためのアンケート調査結果と比較すると、「8.子育てをしながら働きやすい職場環境の整備」(28.7ポイント増)、「2.小児医療体制の充実」(22.8ポイント増)の割合が増加しています。

問18

子育てをしやすいむらづくりのために、今後どのようなことが重要だと思いますか。【世帯】※複数回答



「風間浦村 子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査結果報告書」(平成26年3月) P.25

◆風間浦村 キッズコメントアンケート調査

実 施：平成27年9月1日(火)～9月11日(金)

調査対象：小学校4年生～中学校3年生

回答数：79件

概 略：

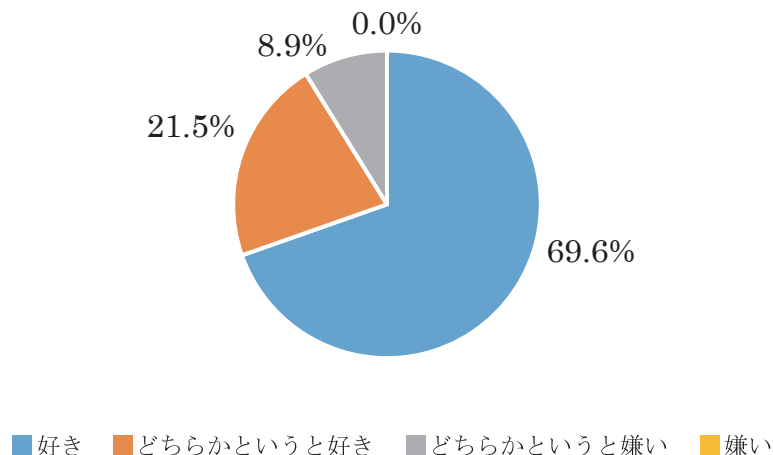
この調査は、小学生に村への愛着を聞くとともに、風間浦村について考えてもらう趣旨により行われました。また、『村長さんになったら、どのようなことをやってみたいか』という問いを設けることで、子どもながらの価値観によって全く新しいむらづくりへのイメージが生まれないかという期待も含んでいます。

調査の結果からは、風間浦村で暮らす子供たちは豊かな自然に価値観を感じ、愛着を持っていることが分かりました。

一方で、今後ずっと村で暮らしていくかどうかについては年代が上がる毎に進学などの状況が理解していつているのか、消極的になっています。

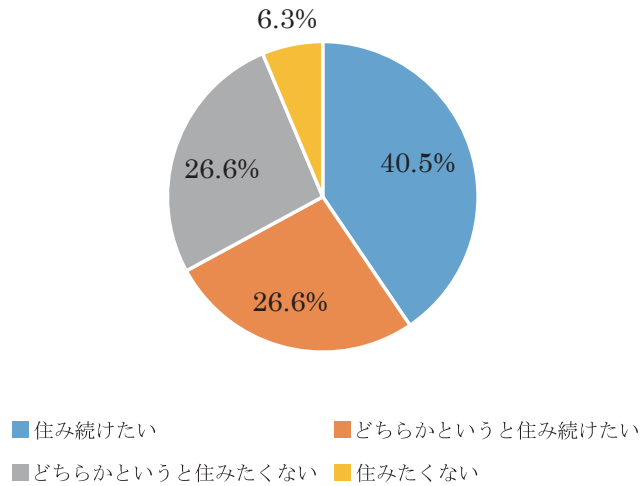
子どもたちが描く村の将来像としては、これまでと同様に自然が豊かなままでいてほしいという願いが感じられる結果となりました。また商店が少ないことを不満に思っており、村を活性化するにはイベントが効果的であると考えていることがうかがわれます。

問1 あなたは、風間浦村のことが好きですか？



「好き」もしくは「どちらかという好き」で91.1%となりました。子どもたちは自分の地元に愛着を持っているようです。

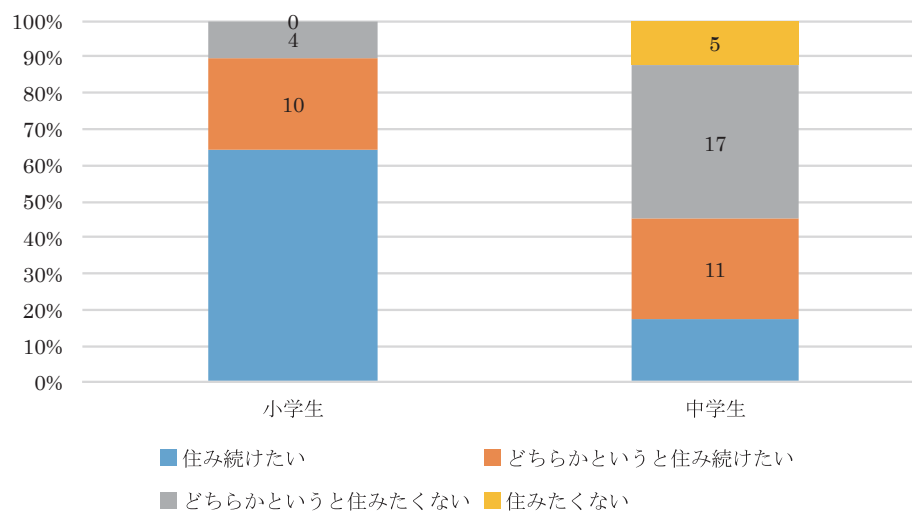
問2 あなたは、風間浦村にずっと住みたいですか？



「住みたい」と「どちらかというと住みたい」を合わせると67.1%(53人)となります。一方、「どちらかというと住みたくない」という意見が21人、「住みたくない」という意見が5人でした。

次に小・中学生別でも比較してみました。

問2 あなたは、風間浦村にずっと住みたいですか？（小・中学生別）

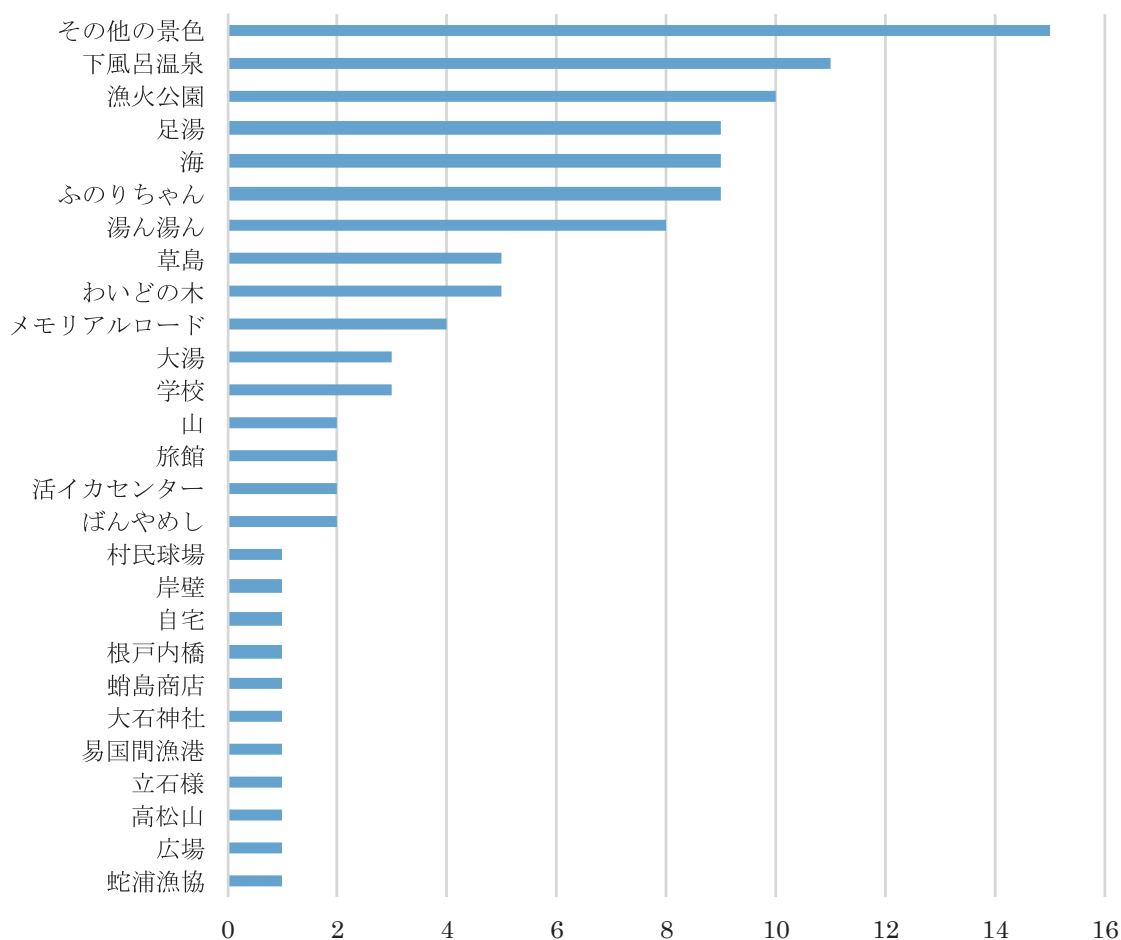


「住みたい」という意見は、中学生になると少なくなっています。学年が上がることにより将来を考えるにあたり変化が生じているとみられます。

問3

おすすめの観光スポットやお気に入りの場所を教えてください。
(風間浦村でお気に入りの風景や場所・施設など、村内のもの)

問3 (1)観光スポットやお気に入りの場所



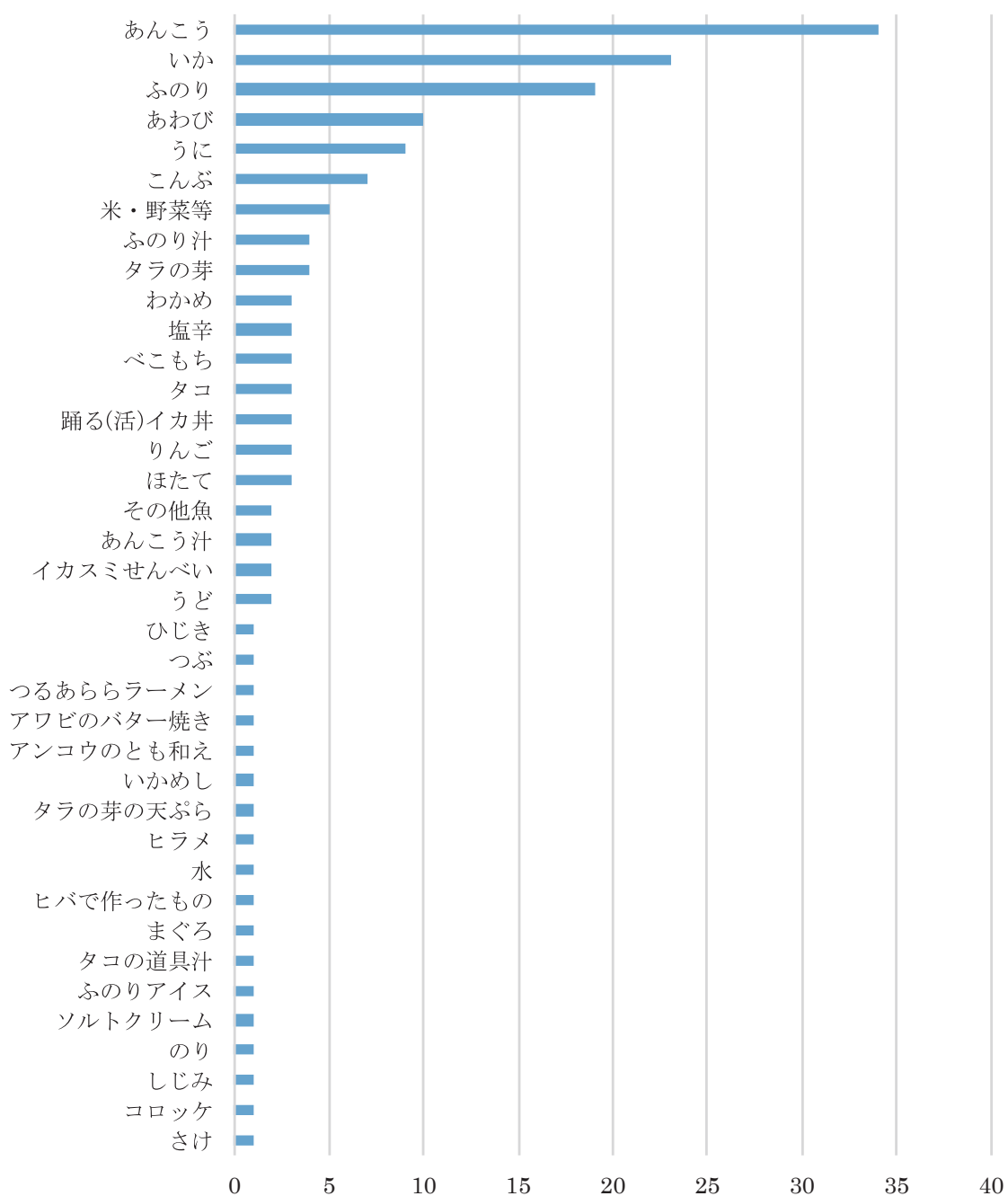
1位が様々な景色、2位が下風呂温泉、3位が漁火公園となりました。

景色には、「ふのりちゃんから見える景色はきれいです」、「大石神社から見える風景」、「湯ん湯んの露天風呂から見る漁火を見せたい」、「高台から見た村と海」、「蛇浦の岸辺の上に座りながら海を見る」、「下風呂の夜の漁火」、「お勧めの風景はメモリアルロードです。冬になるとイルミネーションがきれいです」といった意見がありました。

子どもの目線からも海の景色に心を打たれているようです。これも“地域資源”の一つといえます。

平成25年5月に開業した産品販売所の「ふのりちゃん」にも人気がありました。産品の情報発信場所としてお勧めしているものとみられます。

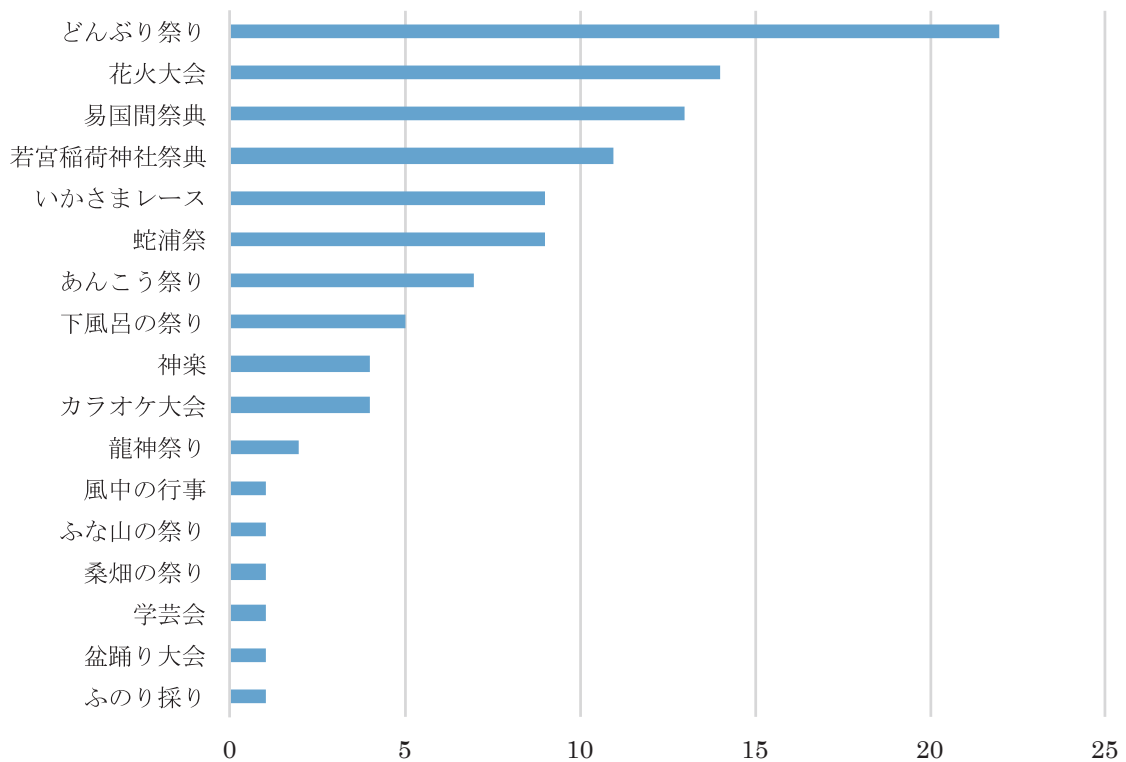
(2)おすすめの食べ物、料理、お土産



多くの産品が挙がりました。

1位はブランド化を進めている「あんこう」、2位はいかさまレースなどで地元を盛り上げる「いか」、3位は「ふのり」となりました。

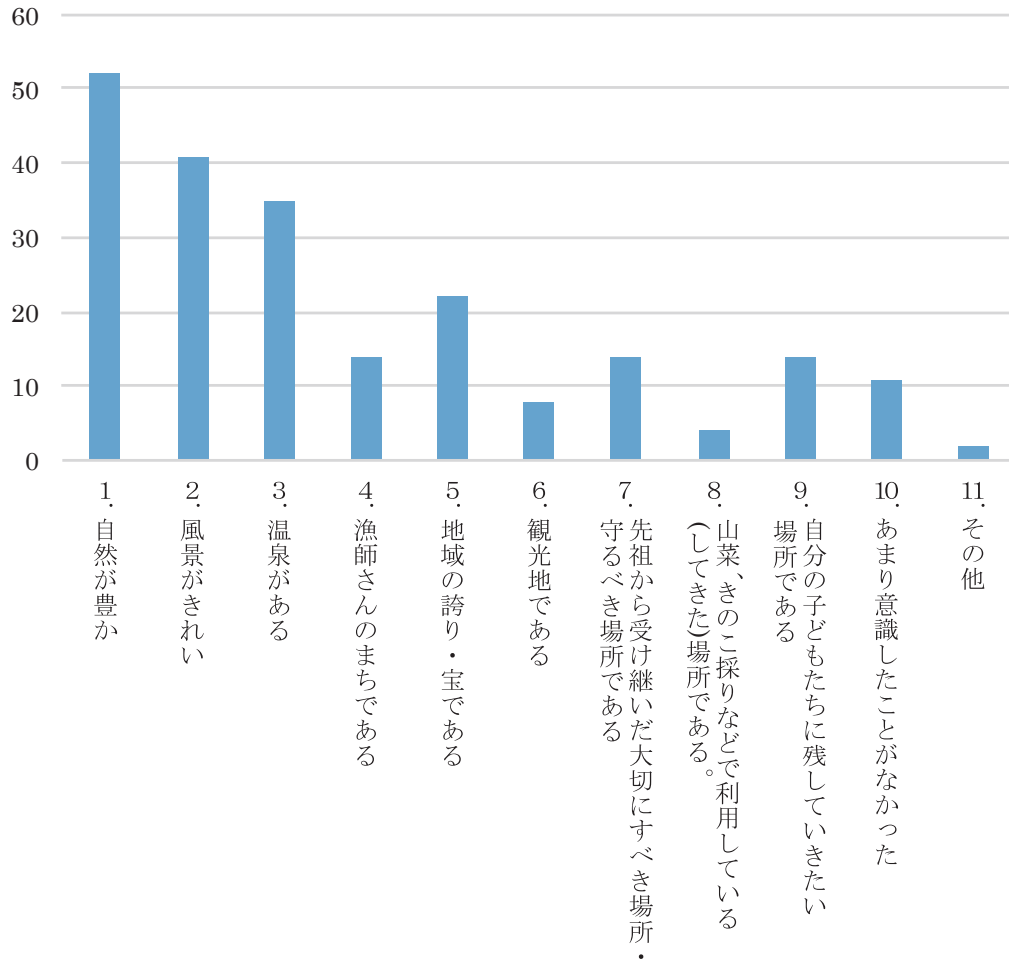
(3)おすすめのお祭り、行事、イベント



おすすめのお祭り等では、1位は下風呂漁港で開催される「ゆかい村海鮮どんぶり祭り」、2位は「花火大会」ですが、どんぶり祭りのフィナーレに行われています。3位は「易国間祭典」となりました。

問4

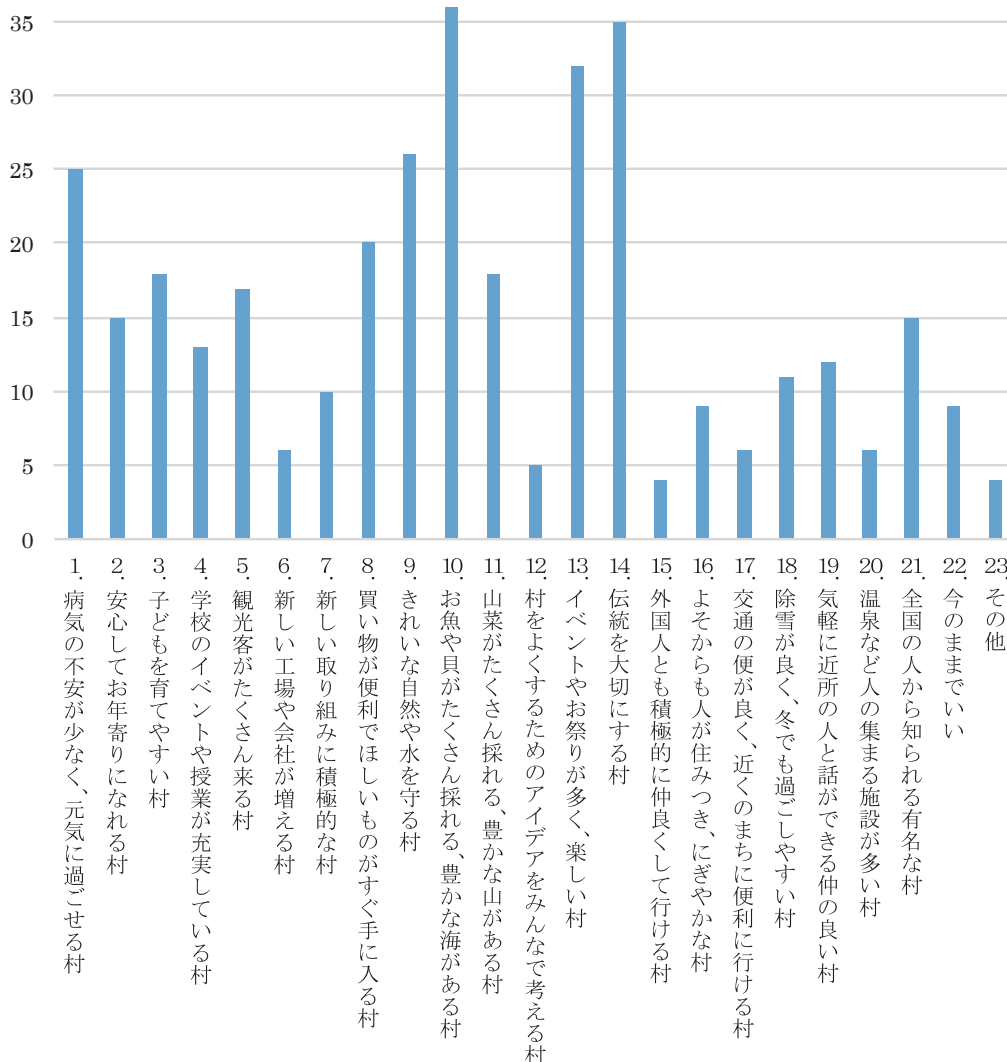
風間浦村の自然を、あなたはどのように思っていますか？
当てはまるものを3つまで選んで数字に○をつけてください。



1位は「自然が豊か」、2位は「風景がきれい」、3位は「温泉がある」でした。観光地としてのイメージはあまりないようです。

問5

将来、風間浦村はどんな村になったらいいと思いますか？
次のうち、当てはまるもの5つまで選んで、数字に○をつけてください。



1位は「豊かな海がある村」、2位は「伝統を大切にする村」、3位は「イベントやお祭りが多く、楽しい村」でした。今も村の特徴である豊かな海を維持し、将来に残すべきという認識であることがうかがわれます。

問6

もし、あなたが村長さんだったら、どのようなことをやってみたいですか？

「コンビニをたてる」(中学校・男子)など、商業の利便性を向上させるものや、「村民全員が楽しめる祭り」(中学校・男子)などのイベントを開催するような意見、「学校のグラウンドにジャンボスライダーを作りたい」(小学校・女子)のような学校に関するものが多く挙げられました。

◆風間浦村 成人式意識調査

実 施：平成27年8月14日金曜日

場 所：風間浦村立中学校(成人式会場)

調 査 対 象：年度内に20歳となる風間浦在住または在住していた男女
(成人式参加者)

対 象 者 数：21人

有効回答数：21通(回答率：100%)

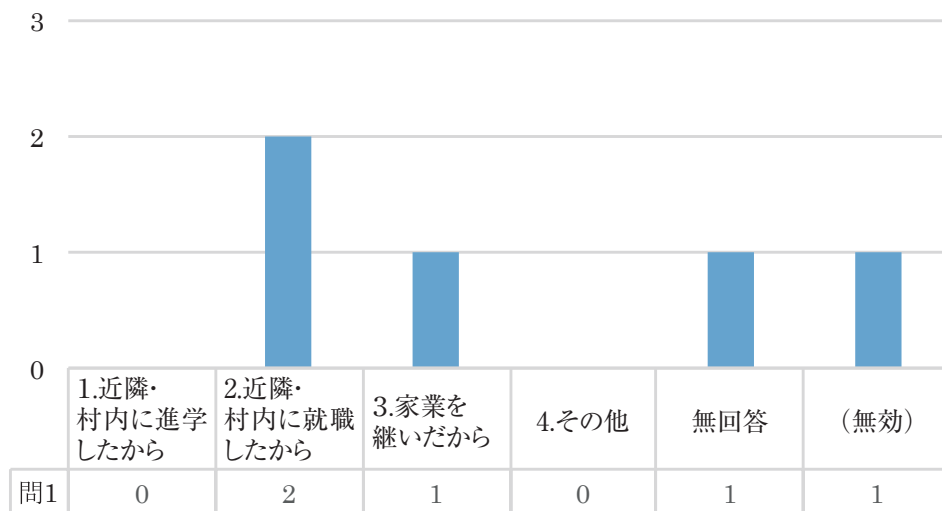
概 略：

「地方人口ビジョン」策定にあたり、進学・就職により若年層の転出が多く生じていることがわかりました。この状況に鑑み、年度内に20歳となる新成人に対し、転入・転出の理由やUターンする意向などを調査することとしました。

問1

【現在も村内にお住まいの方】

村から転出しなかった理由は次のうちどれですか。



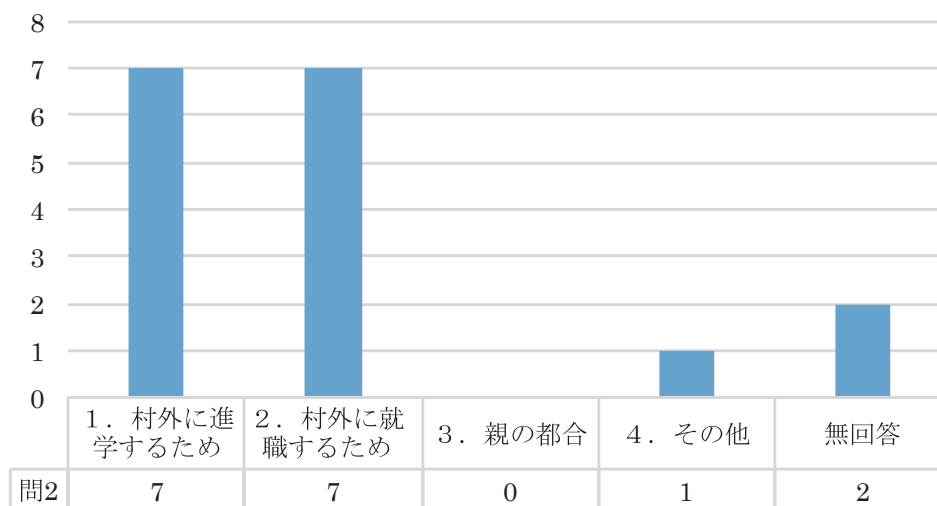
本設問は、現在も村内に居住している新成人に対するものです。

現在も村内に居住している新成人は4人で、そのうち2人は近隣か村内に就職しています。もう1人は家業を継いだことにより転出をしませんでした。

問2

【転出をした方】

村から転出した理由は次のうちどれですか。



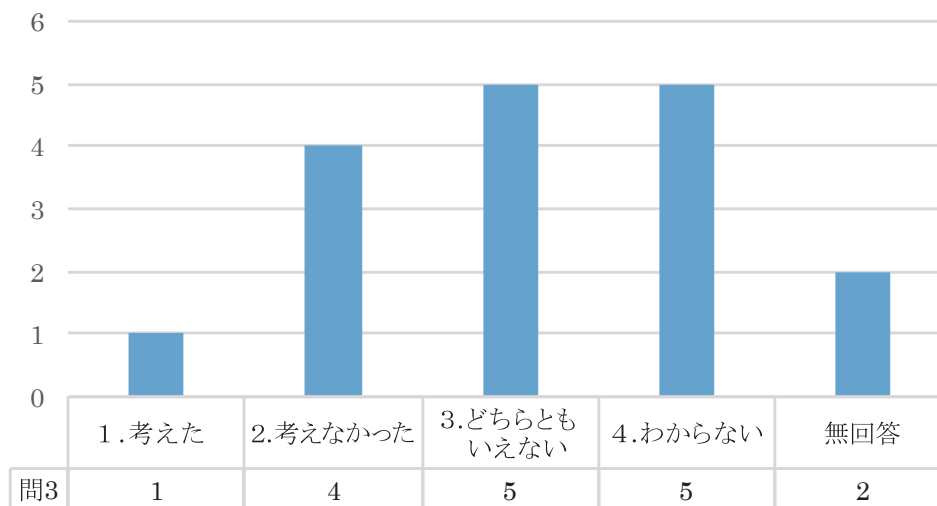
本設問は、前問に対して村外へ転出した新成人に対するものです。

ほとんどが進学や就職のために転出をしています。一方、「4.その他」の回答には「姉が関東に住んでいたから」という回答があり、進学・就職以外でも転出が生じていました。

問3

【転出をした方】

村が何らかの取り組みがあれば、村内に留まることを考えましたか。



本設問は村外に転出をした新成人に対するものです。

村内に留まるにあたり、何か自治体や地域による若者の定住への取り組みがあればそれを受け入れて留まっていたかどうかを聞く趣旨の設問です。

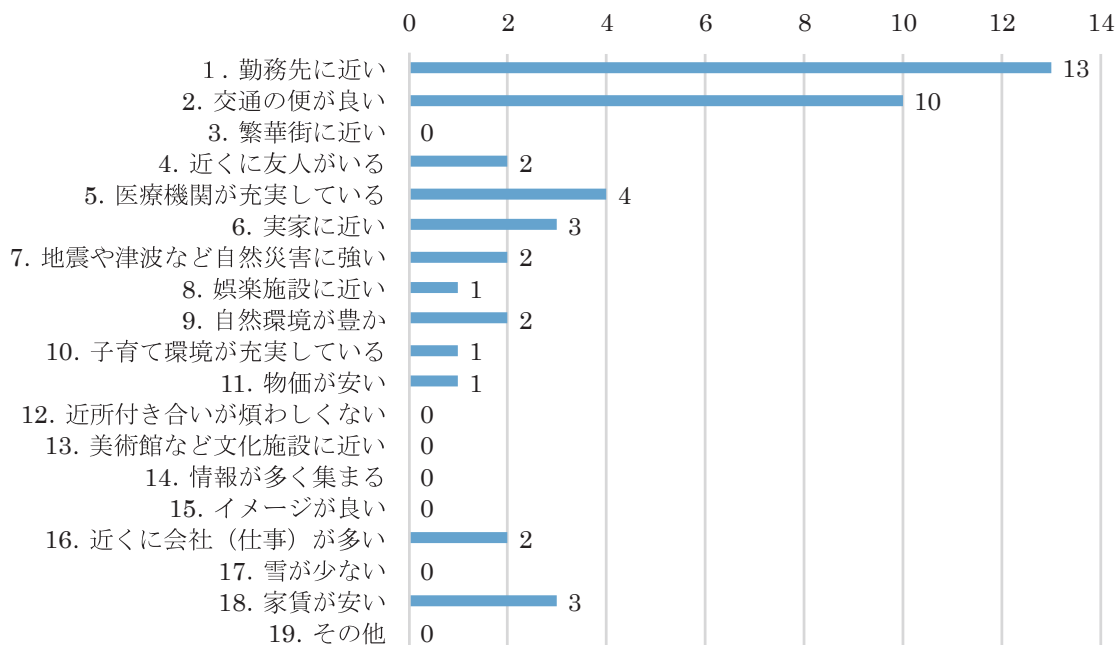
積極的に受け入れて留まるとしたのは1人だけで、4人は取り組みとは無関係に村外への転出を希望しています。10人は「どちらともいえない」、「わからない」としており、取り組みの内容にもよるとい流動的な態度です。

「考えた」とした方の意見としては、「就職する場所が欲しかった」ということで、就業する場所づくりへの期待が高かったとみられます。

問4

【すべての方】

居住する場所を選択するのに重要視することは何ですか。(3つまで)



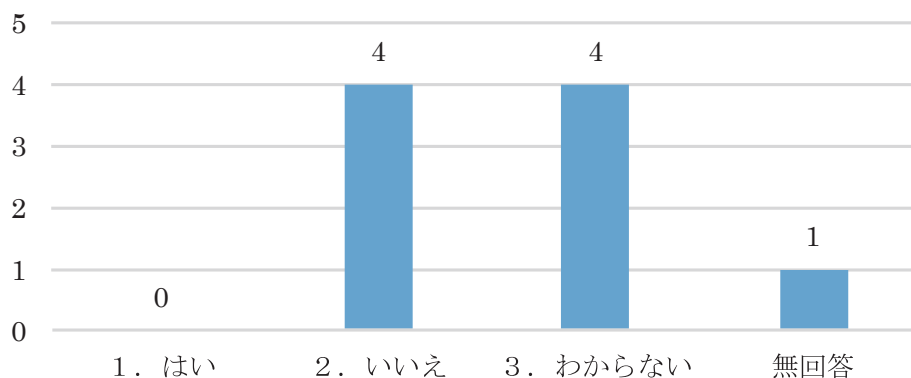
本設問はすべての新成人を対象としました。

それぞれにイメージするところは異なっていましたが、村内・村外関係なく居住する場所は「勤務先に近い」ことが重要としています。つまり、居住する場所に近いところで就業するのではなく、就職先の場所を優先して居住場所を選んでいることが伺えます。

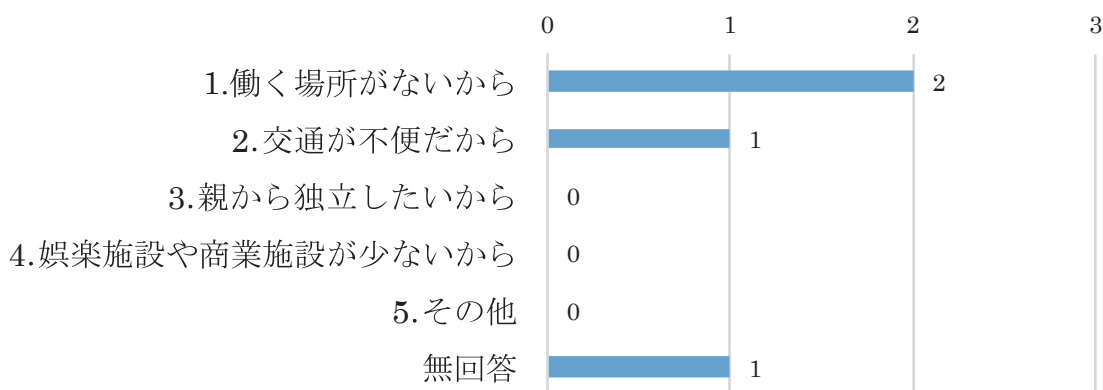
次に「交通の便が良い」ことを重視しています。回答者の多くが「勤務先に近い」ことを挙げていることから、通勤の便も良いことを重視しているとみられます。

問5

【学生】の方
卒業をしたら村に戻りますか。



いいえの方のみ



現在学生で、卒業後は村に戻るかどうか希望を聞いてみました。

今回調査では、役場が把握している情報として学生は全員村外に居住しているということから、卒業後のUターンがあるかどうかを確認しています。

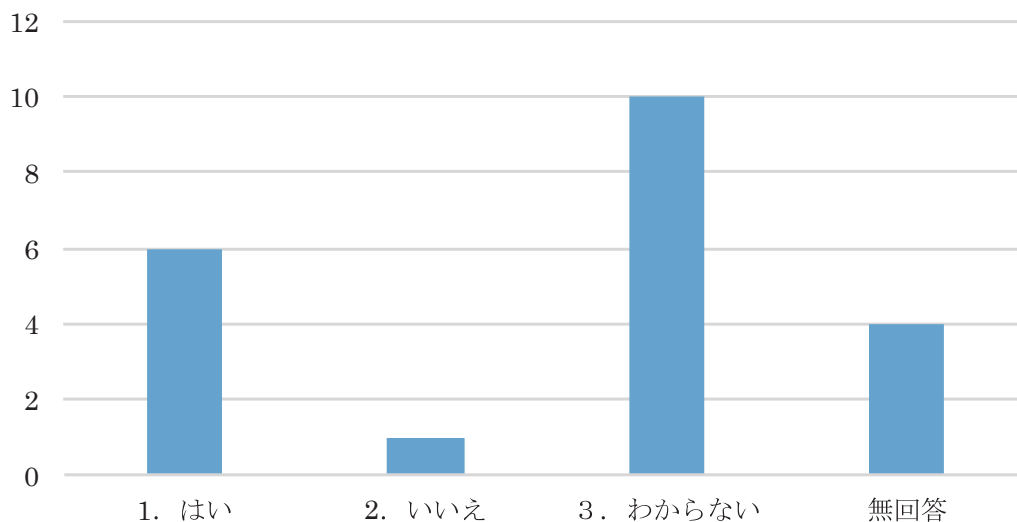
明確に「はい」と戻ることを表明している学生はいませんでした。一方、「いいえ」としてしているのはおよそ半数の4人で、他4人は「わからない」ということで、状況次第で判断する方針とみられます。

明確に「いいえ」と村に戻らないことを表明している新成人が挙げたのは、就業場所と交通の便の悪さを理由としています。

問6

【すべての方】

将来、風間浦村で子育てをしてみたいですか。



「わからない」とした回答が多いものの、風間浦村で子育てをしてみたいと回答をする新成人も6人となりました。

「はい」とした新成人の理由としては、次のものが挙げられました。

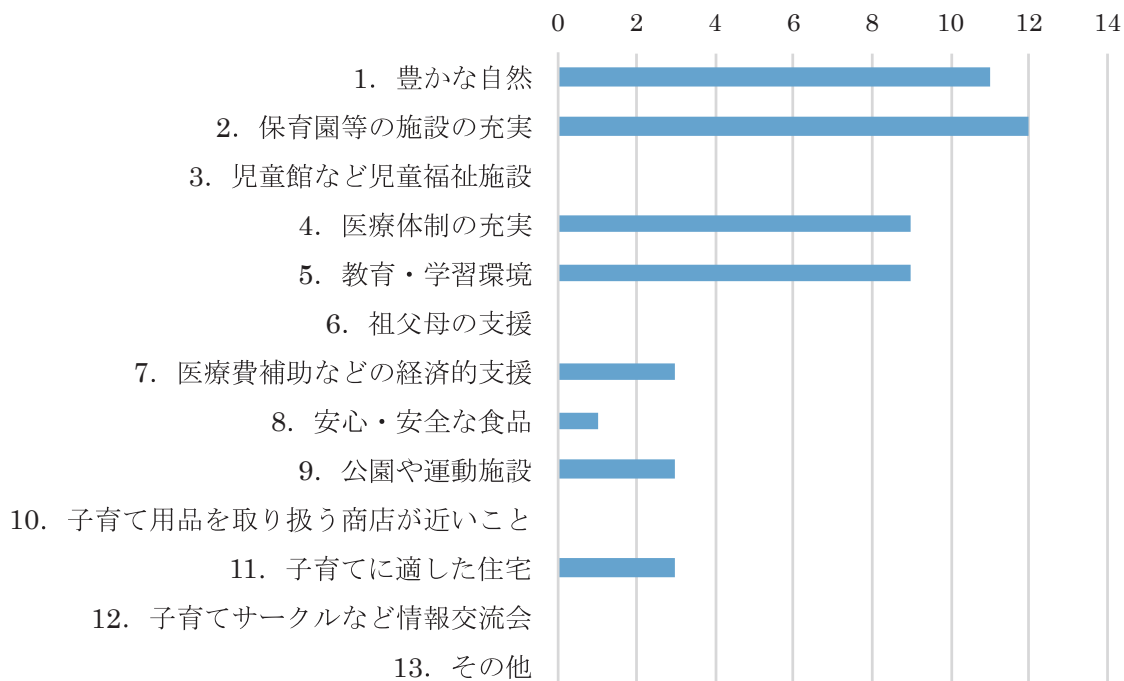
- 自然とふれあわせるため
- 自然がたくさんあるから
- 自分達の育った環境を子ども達にも味わってほしい
- いい村だと思うから

自然環境の中で子どもを育てることに魅力を感じている新成人が多いことが分かります。

問7

[すべての方]

子育てに必要と思うものは何ですか。(3つまで)



新成人が子育てに必要と思うことに、どのようなものがあるかを尋ねました。

まず重視するものは、「保育園等の施設の充実」ということでハード的な子育て環境の整備であると考えていることが分かります。

前設問との関係では、風間浦村の強みでもある“豊かな自然”が子育てにも重要であり、村で子育てをするにはその点ではいい環境であると考えていることも分かります。

問8

【すべての方】

村では子育てに何が足りていないと感じますか。自由にお書きください。

新成人に、村で子育てするにあたり、具体的に何が足りないと感じているかを自由記載方式で聞いてみました。

その結果、これまでの設問でも重要視していた就業場所や医療体制について意見が挙がりました。

しかし、多くの回答者は無記入であったため、あまり具体的なイメージを持っていないとみられます。

<回答>

- まだわからない・わかりません
- 医療施設の充実
- 親が働く場所

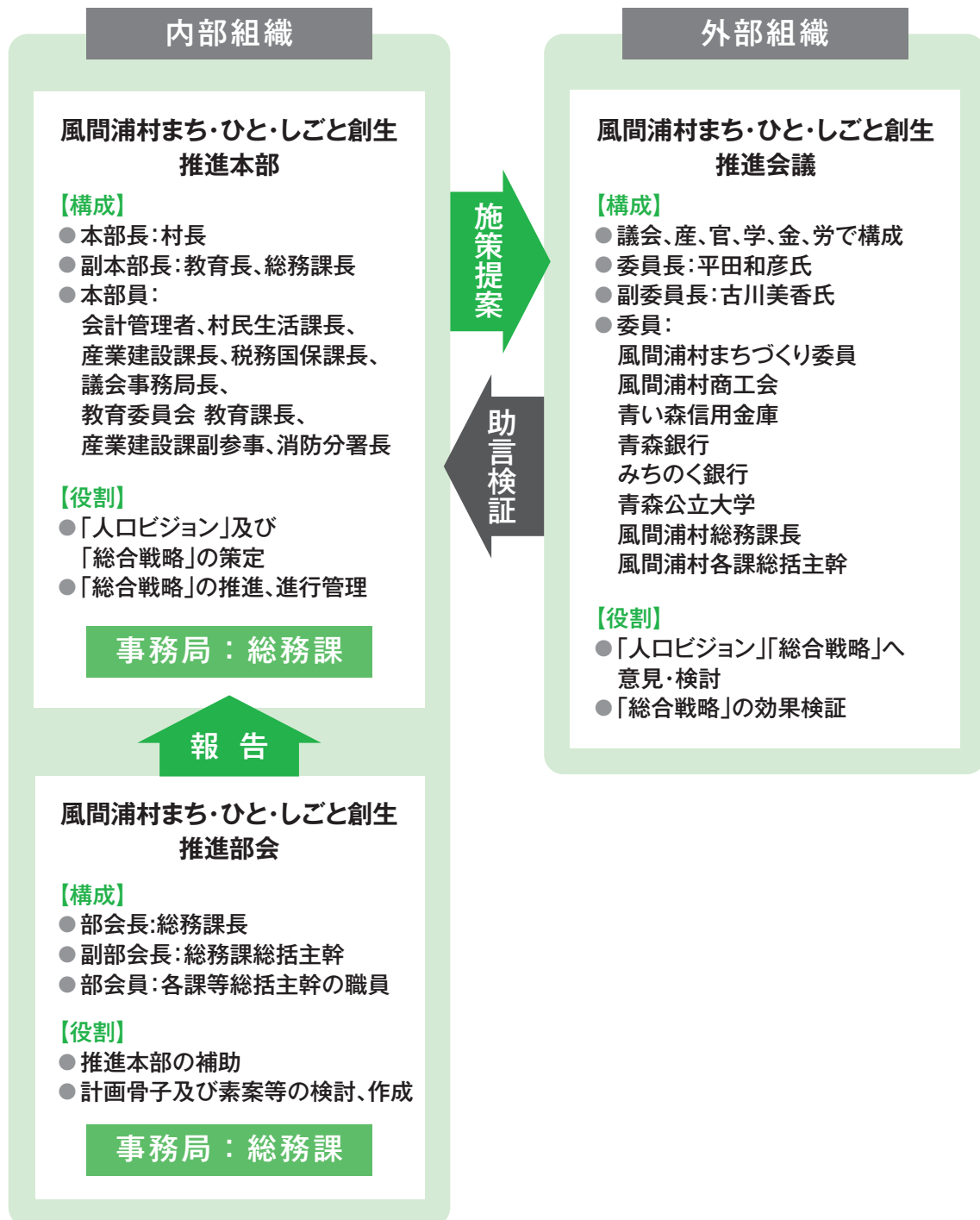
ご意見・ご要望

最後に、産業、福祉、子育て、教育等について村への意見・要望を自由記載方式で尋ねてみました。こちらも多くの回答者は無記入でした。

<回答>

- 特になし
- 特になし。
- イベント、フェスタなど皆が交流できる場所？
イベントなど増やし、他県からくる人を増やすなど？

2.風間浦村まち・ひと・しごと創生総合戦略策定 体制図



平成27年12月策定

風間浦村まち・ひと・しごと創生 総合戦略

発行 / 風間浦村総務課

〒039-4502 青森県下北郡風間浦村大字易国間字大川目28-5
電話：0175-35-2111 / FAX：0175-35-2403